

4 カウンセリング・ルームの中で (1)悩みの訴え方もいろいろ

- 話したい、聞いてもらいたい
- 何を、どう話せばいいのかわからない
→心のケアを受ける場がいかに少ないか
- 悩みを整理と話す
- 「悩みはない」と主張して来談
- 豊富な医学的情報を駆使
→問題の所在を見つけあてている場合が多い

4 カウンセリング・ルームの中で (2)クライアントに起こる変化

- 聞いてもらうことの大切さ
→話すことは癒されること
- 話すことの大切さ
自分の言葉で語る大切さ
言語化することで、問題点を客観視
→夫婦とは・子どもとは・家族とは・
生きるとは——
→本当に子どもが欲しいのか？

- 悩む大切さ
不妊と向き合うことがなかったら、こんなにも真実に
子ども、家族、夫婦、親子のことを考えなかった。
自分と向き合えなかった。
→不妊治療のゴールを自分で手探りでできる
結論はそれぞれ

5 クライアントにとって、不妊とは、治療とは

<不妊治療の意義はプロセスにある>

- 妊娠の確率が必ずしも高くないことの功罪
“手段を選ばず”の心境に追いつけられる人
夫婦・家族の問題点を正視する強さを身につける人
いくつかの事例から

↓

<カウンセリングの必要性>

<性急な助ましや代替案の提示のデメリット>

→あるクライアントの声

- “子どもができなくても、それに代わる生き方がある” “わが子幻想にとらわれないで養子をもらえばよい” “もっと視野を広くもって、古い考えにとらわれないで” “自我を確立すべき”…等々の声は、子どもを産めない喪失感に打ちのめされているときには、何の助けにもなりません。むしろ、そんなくだらないことで悩むなど、悩むことすらも認めてもらえないような、打ちたれるような心境です。

6 カウンセリングの意義と要件

～真の支援となり得るために～

- 不妊治療は医学的課題であると同時に、それ以上に人文科学・社会的な課題
- 悩み、葛藤する人々が育て得る強靱な精神力と人間的な優しさ
- こうした心理的発達過程をいかに着実に踏んでいけるかに対する支援を

- 何でも話せる雰囲気を作るために
無批判の共感と受容から
カウンセラーの力の限界についての謙虚さから
- 問題点の整理ができる専門的知識
- 医療サイドとの連携

—カウンセラーの要件・資格と資質の違いを認識した上で、相互の統合を図れる支援者育成プログラムを
—施設のスタッフ全員がカウンセリングマインドを
